

・27年度の検証（取り組みにおける成果）

・生徒の実態と特性を十分考慮し、指導計画の作成にあたった。具体的で直接的な指示には従うことができ、作品のレベルは高くなっているが、一方で見通しを立てて作業に取り組むことが苦手な生徒が1年生に少しいるようである。日常生活への応用も苦手な様子が見受けられた。

・27年度の検証（取り組みにおける分析と課題）

観 点	分 析	課 題
1 生活や技術への 関心・意欲・態度	作業そのものへの関心・意欲は感じられる、基礎基本的な学習がおろそかになりがちである。ちょっとしたつまずきにも乗り越えず、避けようとしてしまいがちである。	作品製作において、完成までの流れを提示し、見通しを立てる意識付けをする。生徒同士の意見交換を取り入れ、意識を高める。
2 生活を工夫し創造する能力	日常生活のなかで、調理やものづくりの経験に乏しく、授業や課題の内容を日常生活と照らし合わせて考えられない生徒が多い。	生活の自立を目標とし、生活に直結した自分自身で体験できる部分に力点を置き、学習したことをどのように日常生活で生かすか、あるいはどのように生かされているかを考える道筋を示す。
3 生活の技能	調理やものづくりの技能が必要なものであるという意識が低く、丁寧さに欠ける生徒が見られる。コンピュータに関しては、個人差が非常に大きい。	ものづくりに関しては基本的な作業経験を繰り返し行う。また、どうすればうまくできるかという過程をしっかりとアドバイスし、早めにつまずきの発見を促す。
4 生活や技術についての知識・理解	全体的につくる経験が少ないので、材料の種類やその特徴等に関する知識が不足している。また、覚えることはできるが、それらを組み合わせることが苦手である。	得た知識を生活の中に役立てることができるよう、課題解決の道筋の提示を多くする。易しい課題を多く行い経験を増やす。導入の段階で、実体験に即した内容を提示する。

・28年度の授業改善策

★技術分野

（第一学年）

- ・ 座学と実技の授業を分けて行い、知識を技能に応用する経験をさせる。
- ・ コンピュータやネットワークの基礎的な仕組みを中心に学ばせる。

（第二学年）

- ・ 木材加工を通してものづくりの過程を学ばせ、見通しを立てる大切さを学ばせる。
- ・ 各作業や工具の使用法などについて、なぜそうする必要のあるのか理由に触れる。

（第三学年）

- ・ 生活や技術について関心をもたせて、生活を充実向上するために進んで実践しよとする力を育成させる。
- ・ 失敗の原因や検査の必要性を考えさせ、問題を解決しようとする態度を育てる。

★家庭分野

（第一・二学年）

- ・ 基礎的な被服製作などの実習を通し、日常着の手入れや自分らしく目的に合わせた着方を学ばせる。
- ・ 食生活の重要性を理解させるため、生活を振り返らせたり、調理実習などの実践を取り入れ、食に対しての関心をもたせる。
- ・ 消費者として常に問題意識をもち、環境について考え生活向上のための衣食住について、具体的な例を取り上げて実践する。

（第三学年）

- ・ 保育を中心として、幼児の遊びや衣食住について考え、ともに成長することの大切さや自らを高めるための課題を発見させ解決させる。
- ・ 自分と家族や家庭生活との関わりについて考え、将来の自分の姿を想像できることを目指す。

